一珍らしい、新様の流行が此頃出ました。着物や何かでなく、一種の身体粧飾法です。次号を見ぬ人は其愛らしい新流行を知らずに過ぐす事でしやう。要するに其事は今一二の上流社會に現れたこと、一般の淑女がたはまだ御存じで有りません。次号には其圖を加へて出します。いらつめ方、次号を見ずに後悔なさいませんな。衣服などの流行は珍らしく有りませんが、今度のは實に日本服粧飾法に一派を與へたものです。注意々々。

いらつめ第五十一号目次（明治廿三年五月一日）

●菩の花……命のつな
規則正しい事
初夏（韻文）
●雑纂……裁縫獨學び……木下貞子
本比翼附比翼
○ランプの煤
○米國婦人職業近況
○窓の花及び函庭
○新工夫はんけち入
●寄書……英語を學びたまふいらつめ方に參らす……撫箏女史
いらつめ御記者さまに……大和田建樹
●通信問答

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二十九錢郵税共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵税共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵税共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵税共金一圓二十四錢●別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六十五錢郵税共金七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵税共金一圓九十錢●並別兩製共前金領収の上で無くては差上げぬ事●府内に限り無郵税●毎月二回（十日二十五日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局とある處に（神田郵便局）と記し受取人欄内に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り増しあれは妨げ無い事●見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上げます●廣告料一行金八錢、割引無し

本号掲載の中最も面白いものは**米國婦人**職業近況**窓の花**及び**函庭**外に**新工夫**はんけち入れ**製法**其他通信問答です

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

苔の花

一名 小學校（第三）

趣意 俗語を主として力めて野鄙を去り、そして修身を目的とする事。

第十三（第九）いのちの綱つゞき

飛び立つやうに嬉しくなつて大吉はやがて其邊から綱を持つて來てたくみにそれを岩の手頃のところへ結び付け、一方をバ下へ放し下してその綱にすがり、ずる〳〵と段々下りました。實に思ひ切つた、きはどい遊びをしたもので、元より亂暴ないたづらです。が、その分別が無ければこそ興に乘して大吉は鴨の巣まで下つたのです。やがて巣に近づきました。下は目のまはるやうな荒海でした。すさまじい濱の岸に打ち寄せて來る勢の恐ろしさ、なか〳〵身の毛もよだつ程でした。が、太吉の一心は鴨の玉子にありつく事、すこしも恐れず、巣に手を延バしました。不幸に大吉の手は縄みじかくて巣には屆きません。屆かぬと言つて其儘思ひ切る事も出來ません。しかし、身の頼むところは唯一條の綱ばかり、それも階子のやうに足だまりが有るなら格別、何も無い一本の綱ゆゑ、すこしもたれ下がつて居る内に早くも手はつかれて來ました。濱風はあら〳〵しく吹いて身体を前後にゆすりました。次第に手はつかれて來る、やがて筋がいたんできり〳〵する、もう堪らなくなりました。

たまらなく爲つて手を離したら何う。身は濱の上に落ちて仕舞ふでしやう。命は惜しいもの。どうして手が離せましやう。離したくは有りません。が、手の方で言ふ事を聞かなく爲りました。もうこらへられなく爲りました。

こゝに至つて太吉はつく〳〵つまらないいたづらをしたのを後悔して來ました。泣き出したく爲りました。

どうにも斯うにも爲やうが無く、もはや縋つて居る事が出來ぬ以上は――とても死ぬなら――思ひ切つて力めて見ての上の事と決心しました。で、勇氣も出ました。

見れば、岩の間にすこしばかりの窪處が有る、その窪所に飛び付かうと決心しました。

しかし、それが果して充分に出來ることやら出來ぬことやら。

たゞ迫つて來ると勇氣も出るもので、終に太吉も屹と心と定めました、「ぐづ〳〵して居ては死ぬ。　死ぬよりそいつそ。　いざ！」

飛びつきました、生死二つの運命を掛けて。　が、一心の凝るところ、運よくその窪んだ處に飛びつけました。　それでやうやく暫ぐして下をとほる舟に助けられました。　あゝこはい事！

第十四　規則正しい事

西洋の諺に「遲くとも爲ろ」とありますが、猶この「遲くとも」と惡いので、決して誰でも時をあやまつて遲くあるものでありません。　人から呼ばれたり何かして直に其定まつた時間に行かぬのは大した不敬で、而も其人の心に不たしかと人に見せると同じ譯です。　規則正しく時間を守るといふ事は一寸爲にくいやうですが、しかし心掛けさへすれば決して六つかしいものでは有りません。　朝何時に起きたいと思へば夜寐る時臭に心から其事を誓つてそして床に就けばやがて朝に爲つて定めの時に目は覺めます。　何も心の決しやうの次第です。　癖なぞにかこつるのは極の卑怯者です。

第十五　初夏

やまほとゝぎす　おとづれて
　わか葉に　いろに　夏も　見ゆ。
はるの　音じめを　あらためて
　ひばりの　うたも　いと　かろし。
ひとりの　うたも　いと　かろし。
　かろきに　かふる　せみおろも。
花ぞめごろも　ぬぎ＝かへて
　やまも、　見よ　見よ、白　ひとへ。
やまも　見よ　見よ、白　ひとへ、
　うりごゑ　たかき　はつ＝がつを。
ひそかに　いでし　ゆふづきに
　蛙は　いづこ、　沼の　葦。
夏のはじめの面白や〳〵〳〵

雜纂

裁縫獨學び

本比翼附比翼の縫方

木下貞子

本比翼の縫ひ方ハ最初ニ表袖からぬひとじめ、袖ニ躾糸をかけ、又袖口をかけるのです。そして袖下ハ袖附のはうで二寸許りの切地を二分程つめてぬふのです。次に比翼の表袖れ口先へも躾糸をかけ而して裏の袖口から巾を五六分も去つて一處ニ縫ひつけ、又八ッ口の切地ハ表の奥れ方よりも口の方と二分程つめて縫ふのです。表と裏をよくそろへ端の方をぬひ、それから綿をよいゝげんに程よくし、共ニ八ッ口をぬひ、しつけをし、袖口ハ裏袖の方へ合せて綴付け、そして表身頃と通常の服のやうにぬひ、又胴裏をぬひ、裾廻を各縫ひ胴廻ハ裾廻三枚と胴一枚を共に縫ひ付け、折目ハ胴の方にするのです。各ぬひとはつて躾糸をかけ、それから前巾とはかり、抱きをはかり又その抱の中間もはかるのです、下着の方にありますと裾口から胴繼までの間を二分程もつめて折目をつけ、衽と胴繼のところまで折目をつけ、夫れから上の方ハ胴一枚と衽三枚を一處にぬひ、そして劔先を身頃へとぢつけ、裏のぬひめが出た方へ裏襟一枚に表の襟と一枚又向へ裏襟を一枚其の間の方へ身頃を挾んで四枚共ニぬひ襟先のところハ裏の方へ襟裏を一枚別々ニぬひつけるのです。比翼の表の方へ裏襟一枚と表襟一枚をぬひつけ、それから袖口をあはせるのです。裾をぬひますにハ裏衽を四枚とも揃へてかたゞみをあて、あはせて篦で標とつけおき、その處から表衽の巾のやうに糸でいゝかげんにぬひしめ、切地を斜めニ引つはり、ぬれ手拭で切地に濕とあたへ、之を乾かし、夫れから表の方へあて裾を縫つてよろしく、そして身れ八ッ口をぬひ袖をつけ、たゞしくするのです。

又綿を入れますニは最初に襟肩れところから裾まで手を入れ、引返して表の後の方へ綿を入れおき、裾廻のところへ綿とくるみ、夫れから表と裏ゝ襟肩のところから裾迄手を入れ、裾口と綿と共に持ち、引返して又前れ身頃の方へ綿をおき、表の前身頃の方から袖へ手を入れ、袖口と袂を一處に持ち、引くり返して双方引き合はせるのです、比翼の方ハ折けますにハ口綿のやうに綿を入れるのです。

附比翼の縫ひ方ハ先づ上着ハ通例の女服のやうに仕立あげ、比翼ハ袖口のミ別に拵へ、八ッ口も別々にこしらへ、次に裏表の裾廻をぬひ、又堅褄をつけ、裾口を合せ、褄を拵へ口綿にしてくけ揚るのです。襟先の方をかり襟をつけ、襟とくけ、それから總体とぢつけるのです。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ランプの煤

油を以て点せるランプからは絶えず煤が立ちます。 それも火屋のあるならまだ少いでもが、その無いのあとに至ると最もはなはだしく、肉眼にすら見える程です。 この煤が人の身体には毒で、虚弱の人が吸ひ込めば咽喉かたるなどに爲ります。 それ故是非とも氣をつけて其煤が一室内に飛び散らぬやうに爲なければ爲りません。 之を防ぐには二三寸幅ぐらゐのスポンヂに清水を含ませそれを明りから一二寸の處へ焦げぬやうに吊して置くので、斯うすると明りから立つ油煙は絶えずスポンヂに吸ひつけられて外へは散らず部屋の中の空氣を常に清潔にします。 一晩かうして置いたら翌日其油烟に黒むだスポンヂをよく／＼洗ひ、更に奇麗になつたところで又前のやうにして吊して置くのです。 一寸した法のやうですが大に益になります。

米國婦人職業近況

いよ／＼米國の婦人職業は日を逐つて盛になり行き、今日の處では全く職業に於て男子と相央するばかりです。 それに就てことに吾々を驚かしたのはワシントンで出版した昨年中の勞役の報告です。 賃銀を取つて銘々一つの職業に從事して居る若年の女は一万七千四百廿七人、職業の種類は三百四十三。 それで女の年齢は平均十五年四ヶ月との事で、また全數の中百二十九人は九歳以前から職に就き、全數の中三千五百〇三人は十四歳から始めたとの事です。 是業は毎朝必ず五時六時の間に起き直に商店なり何なりへ通勤し、それから一日勞役に從ふのです。 一日終つても猶仕事が片付き切らぬ時には猶仕掛つて之を爲、或は廿歳以上になつて相應な相手を擇んで夫婦に爲つたものは家へ歸つてからまた家事に從事します。 賃錢と言つては割りに僅なものです。 しかし、それで最も嘆美すべきは是業の勞役婦が中々卑劣で無いことです。 決して其職業を力めるのを恥としません。が、永く其職業に居るのを満足しません。 金を溜めるなら溜めて、天晴れ世の中に推しも推されもせぬやうに立たうといふ決心はいづれも皆持つて居て、一人として小成に安んじて居るものは有りません。 ある貴婦人が曾てこの勞役婦の状況を子細にしらべ、一人の勞役婦に向つて「これだけの勞役婦の中で天晴高尚な志を有つて居る人はどの位ありましやうか」と尋ねると「こんな左様です」と答へました。 義勇、辛抱、忍耐、愉快、熱心をと

これらが是等の所有れ德です、　夕方に爲つて商店の用も終れば大抵の女子夜學校に勞役婦を見ぬ事も無く、また此處で一心に勉強して居ます。　ある貴婦人が曾て女子夜學校を參觀に行つた處、其處に一人の小娘が顏を蒼くするまでに疲れながら、猶筆を持て習字をして居たれを見て大に驚いたとの事で、その時敎師も其娘を指さして、「この子も毎夜十一時にも欠かさず來て夕食も濟ませずに斯う勉强するのです」と言ひました。　貴婦人も大に感服して其娘れ机れ前に立ち寄り、「御前さん、そんなに御勉强で御疲れちやムいませんか」と問ふと娘も笑を含んでこたへました、「晝間働きますから其餘も勉強しませんと末に後悔しますから。　それでも折り折りも寐る時間も有ります」。この勇氣も恐ろしいもれです。深窓に起き臥しゝて三度れ食事も給仕つきで居る御孃さま方が思ひも付かぬ事でしやう。　又こゝに一例もあります。ある娘が一人でその父も大病で、その看護もし、生計も立てなければ爲りませんでした。　それを小腕の少女が世智がらい世の中に立つて爲とげしました。　朝四時に起きて食事から掃除から洗濯から一切れ事を一人で爲、それから糸を朝の七時までも必らず取りました。　七時過ぎて絹織物紡績所へ出勤し、十二時に了つて家へ歸つて直に晝飯れ仕度をしましたが、食物も其歸り途に見立てゝいつでも買つて歸りました。それから父にも食べさせ、自分も食べ、それ膳部を其儘にして一時ゟまた糸を採り、夜になつて夕食をとゝれへながら晝れよごれた皿小鉢を洗ひ、直にそれで又父と一途に食べ、父を寐かすと夜も八時に爲りました。　それにしてもよく手ばしこく爲るのです。　それで一週れ間に幾度と日を定めて八時過ぎから學校へ行つて日用必需の事を學びました。　その勉強、それも亞米利加人一般の勉強心を見習つて居るためでも有りますが、日本れ御孃さまれ夢にも知らぬ處で、猶感心なのも相應に小奇麗な着物を着て、晴れた席などへもそれで出る事で、而もこの際に爲つて不德なことなどをして男子の助けなどを得やうと思はぬ處が感心です。　あのやうな婦人を妻にした男子はまことに仕合せでも。酢いも甘いもかみわけたこともある夫れ楯とも矢ともなるのも必然です。　あるときなども勞役婦の一人が其知り合ひの勞役婦と一途に感心な企てを爲た事が有りました。　どうも終日終夜齷齪して居るものゝ猶多數の勞役婦の中にも爲たい三昧に身を行ふものが有る、その風を矯正しやうとて其中の一人れ發起で、みな

みな業を終つた後に集合して樂しめるやうに一つの倶樂部をつくり、醵金して小說、詩文、脚本、繪本、音樂書類、音樂器、かるた、球などを買ひ、寄り集まつて思ひ〳〵好きなことをして遊びました。それから体操をも爲て、絶えず身体を練りました。その倶樂部の婦人はいづれも前に言つたとほり勉强で儉約で、世話女房には最も適した方、それもゐる青年の男子の中にこの倶樂部の中から互が六十年の友を撰からうと心ざすものも有つて、自然その倶樂部の婦人もいよ〳〵身を謹しんで取りも直さず信用を博さうと勉め、思はず知らず家政の熟練をも次第々々に積んで行きます。

窓の花及び函庭

窓の花と題しても決して窓に限る事でも無く、言はゞ室内の花の事です。よく植物は植木鉢に入れて日あたりのいゝ處などへ出しつゞけに出して置きますが、實は日にあてるのも宜しいもの、あてる時には植木鉢を水桶か何かへ入れてにして置くに限ることで、强ひて言ふと日光が植木鉢の全面と照せば鉢の中のわづかな土が早く熱氣を多く受け過ぎて大に植木がくるしみます。

たゞさうかうして費用ばかり嵩むのも亦取るべき事でありません。こゝに費用も少なくそして實際植物のためにもなり、その寂々した色と以て目とたのしませる法が有ります。即ち木でまづ植木鉢をつくる事です。木でつくるのが何も新らしい事でも有りません、が、木づくりの植木鉢は今の世の中にあまり貴ばれません。恐ろしくごた〳〵した陶器の鉢が流行するため、其利不利を問はずに木づくりをば擯斥します。が、前言つた理によつて實は陶器の鉢よりは木の鉢の方が植物のためには宜しいので、それ故木づくりのに植物をやしなへば陶器ほど勞を取らずによく仕立てられます。木と松が一番よろしいです。が、風雅なのは——もし得られるなら——老樹の根株、または船板です。しかし、船板も新らしいのはいけません、新らしいと濕氣など多く含んで居るため植物を枯れさせる事も有ります。これで箱庭ぐらゐか、又もすこし大きく作つて窓の下までも置くのです。大に面白いものです。

函庭といふものがいつ頃から出來たか知りませんが、非常に優美な、愛らしいもの、其もづか二尺か三尺の間に天然の山水を作るなど最も詩情を發し、美心をはげますもので、い

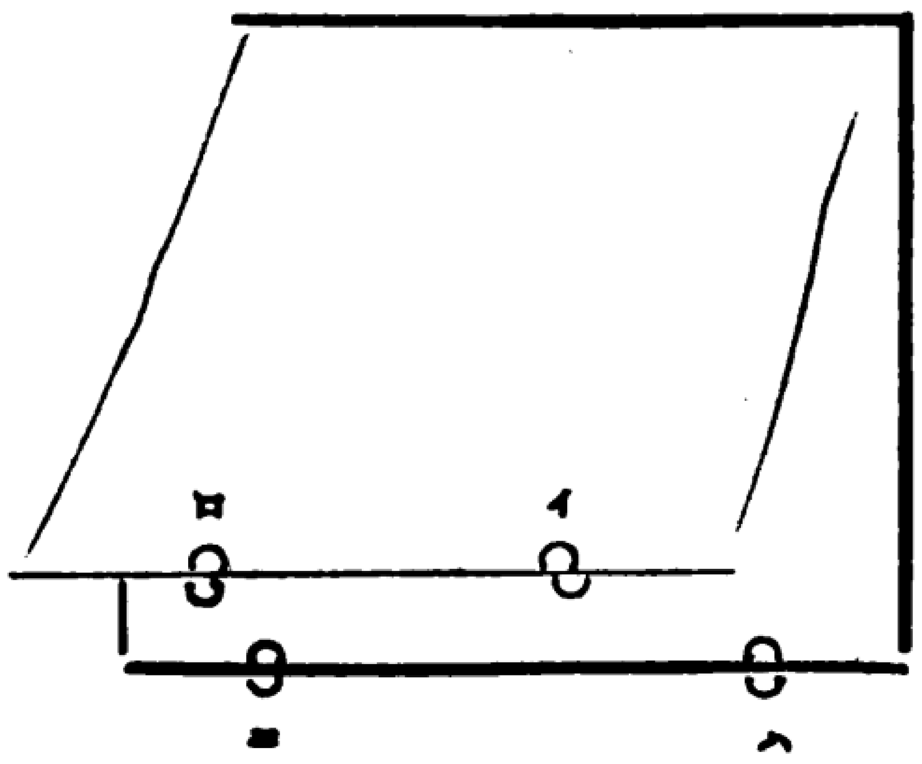
らつめ方がなぐさみに爲て大に有益なものです。　いらつめ方はいまゝで幾度も函庭を見、また中には自身つくられた事も有つて御存じでしやうが、しかし隨分あれとても六づかしいもので、まことは庭つくりの法を知るとか、景色を見る鑑識が無ければ出來ぬことで、その中でもよく見る世の中の山庭が得て批難の入らぬものが少いといふのも全くそれを作る人が美心に乏しいからです。

　函庭の中でもつとも六かしいのは深山の景色で、黒ボクの組み方が中々自由に爲らず、それのみか澤山に特有の莊嚴、幽邃といふ趣きが小さな處でも中々出しにくいものです。が、之に反して海などは最もつくりいゝもので、御試みに爲るならまづ海を御作りなさい。　海は一面に青砂で濱をつくり、磯邊をば他の白砂か何かでいろどるなぞ大体が平面ゆゑ巧者が少なく、それで右の端へでも寄せて一大岩石を置けばもはや趣きも出來ます。　それで舟を置いても宜しいです。

畢竟函庭といふものは一種の新らしい美術で、いまゝでに何故それが世に多く用ゐられぬか實にあやしむべきほどです。われ〳〵から常から函庭が美術であるとは信じて居ました。今時候もやゝ函庭など見てたのしむべき時です。　函庭をつくる今までの作法は重につまらぬ家などに有る處ばかりでしたから曲に乏しく面白くありませんでした。　が、凡そ景色といふ景色もすべて取つて函庭にしてかまはぬ譯で、まづ作る時に氣に入つた山水の圖とか、景色の寫眞とかを粉本にし、それによつて色々に工夫するのが宜しいのです。

新工夫はんけち入れ

　上の圖は其形だけを見せたものです。はんけちと言ふ物は兎角皺に成たがる物で、手際が肝心です。夫も絹で無ければ構ひませんが上等の綾織の絹ででも有れば大に見ぐるしい事です。　それまでで無くともこのはんけち入れは疊に出來て居ますから何か外れ紙を入れてもよく、そして坐敷に出して置いて見ぐるしく有りません。　肝要なところは唯色の取り合はせです。



　其大きさは見計らひで、はんけちが入ればよろしいです。大きさを定めて板目紙か、又はボール紙を切り、それに切れを張つて体裁をこしらへるのです。　板目紙もその紙屋にも有

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りますが、是は板が小さいもの故、時よと不都合が有ります。ボール紙なら大きく作るのも勝手です。それ故眞中の處りら二つに折り其折目の處には切れぬやうに（ボール紙はことよ）しつかりした紙とまたがせて張り、さて其上に、表の方は薄色の繻子、裏の方よは白の繻子を張るれです。繻子で費用がかさむなら絹でも宜しいです。表れ絹の色は薄紅梅が至極よろしく、それも成るたけ色の淡いだけ品が上つて見えます。それから縁でそが、是は萌黄か、又は裏葉柳の絹に限ります。純子などはいけません。

もし又それで模樣でもつけるれバ其薄紅梅地に玉蘭の白蓮なぞを一輪バかり（但し蕾つき）置いて宜しいです。之を縫ひ取りにするならあらかじめ裏を張らぬ内よ爲るがよろしいでそ。

右のやうよ作つて、圖のイロハニの處に銘々淺黃のレボンを付け、口を結ぶためよして置く、さうそると譯も無く非常に美麗な疊が出來ます。

○懸賞文藝新題

○第二十回題（何でもよろし）　五月十日〆切
右　初夏の鐘

○第廿一回題（何でもよろし）　五月廿日〆切
右　老女杜鵑を聞く

○第廿二回題（唱歌文章に限る）　六月十日〆切
右　梅雨窓前に香を焚く

○第廿三回題（唱歌に限る）　六月廿日〆切
右　午睡美人

○第廿四回（唱歌文章よ限る）　七月十日〆切
右　採蓮女

○第廿五回題（何でもよろし）　七月廿日〆切
右　盆燈籠

○第廿六回題（文章よ限る）　八月十日〆切
右　谷の螢

○第廿七回題（何でもよし）　八月廿日〆切
右　源氏を讀む

○第廿八回題（何でもよし）　九月十日〆切
右　意中の人れ品定め
右も男女に限らず或は夫、或は妻、いづれにしろわが望む理想の佳人君子の品定めを言ふのです。

○第廿九回題（何でもよし）　九月廿日〆切
右　子の生れた時の親心

近頃應募者の中に應募規則よ背くものが外りますが是から其作の巧拙よ關せず犯則は容赦なく審査有に〻ます

右文藝應募者心得

第一　題を征〻くして成るべく趣向を立てるのを尚ぶ事○第二　唱歌淨瑠璃及び文章は各一千五百字以内の事○第三　一人で二種類の作と投せられた人は一種類各別々の紙に書く事○第四　原稿よは宿所姓名明記の事○第五　原稿は半紙に限る事○第六　第二第三第四及び第五よ背くものは沒書。賞品

菊水摸樣の金又ハ銀杯

○二等いらつめ十二部○三等三部

漢字異語同義（つゞき）

秀渓子

いのる

祈　心に持つ事といのつて、助ともとむること。

禱　加護を求め、福を求むること。

禳　悪事災難をはらひ、のける事。

います

在　其の所にあること。　其地位について いふこと。

いさむ

諫　道理で人君の非とたゞし、さとる事。

諷　風のふくやうにわきのふ言つて、其行 のはつれた事をさとすこと。

いくばく

幾　おにほどゝ多少をのぞへる事

いさむ

勇　きをつくもかへりみを、死をさけさる事

驃　馬の 勢 のはやきこと。

敢　むかふとをにいさゝ、そゝむきゝ。おしてそる事

いたす

致　其とまりまでやりとはそ事

輸　段々はこんで、もちつける事

効　其のきるしのみゆる處までやりつける事

耆　そのあたりまでやりおはせる事。　老境に至る事。

いましむ

誡　戒と同。　いましめつげて、心に持させる事。

誨　道理をいひきかせて、心得させること。

訓　をしへ、いましめて、身につゝしませること。

諗　心に思ふて、忘れぬやうにそるきみ。

警　向ふのきのつくやうにいましめさとす事

勅　天子の制書を申します。

箴　いしそりで病を刺して、いやすやうに 戒 を設けて 心の病をそくふ事。

憲　ろの法を以てたゞのふおかれと示めす事。

毖　心のわきへそれぬやうにそる事

懲　縄と同。　氷縄を張るやうに正直にさせること。

英語を學びたまふいらつめ方に告げまゐらす

美濃　笠松　撫筆女史

文中單に「女子」或は「いらつめ」とあるは、高等教育を
受けたまふべき志あるいらつめ方を除き、おもに商家など
の令孃につきて云ふのです：：皆樣そのお心にて。
攘夷と唱へたる反動で、維新後外國崇拜熱は非常に高點に上り
、今より數年前にては、外國語の解せぬものは殆んど上流社
會に立つことが出來ません程でした。で、小學校も漢學私塾
も皆英語の一科を加へ、ABCの聲は如何なる山間、海濱ま
ても行き渡りて、甚だしきは未だ言葉のまはり兼ぬる小兒も
、既に「スペルリング」を抱へ、白髮の老翁さへ「リーダー」
を懷にするの勢。眞に狂熱し所謂本と忘れて、末に走るの甚
だしき有樣でした。現今に至りても、まだこの熱の冷却せぬ
故？　迚も高等教育否普通教育さへも受けかねるほどの兒童
が、英語を學びますのを見受けます。男子は姑く置き、女子
にして英語を修むるのは何の必要より起りますか？實に私
には解し兼ねます。皆樣も御存知の如く、總て物は一方に偏
れは、他の一方は必す其働きを完くすることは出來ませぬも
の。で、身体發達の時期に、精神を勞することが過度なれば
、決して完全—健康なる身体の發育は望めませぬ。今更私が
申すまでもなく、現今の女子は將來の母です。その母の身体
が脆弱なれば、その子の强健ならざるは勿論のことです。且
、母は其子と保護—教育すべき重大なる責任と有するもので
、其責任を完くするため、且は一家を處理するため、必
要的のことは、まだ〳〵數多なります—英語にも幾層まさり
て。
抑英語を學ぶ目的には二種あります、即其一は發音を正して
外人と直接に談話となし得ること、其二は發音の正否に關せ
す、唯文字の譯語を解し、原書につきて學術を講究するの方
便となすこと—實にこの二種です。（何他に精神の練習等些
細の効用はあるにもせよ）そしてこの目的を達せんとせは、
中々容易のことては出來ませぬ、が、これを學ぶ以上は必す
この目的と達せねばなりませぬ。英語と學ひたまふいらつめ
方は、果してこの覺悟はありますか？漫然流行に：：：：まさ
か。
以上述へし如く、私は女子の英語と學ふことは贊成いたしか
ねます。その代り我國語の學習を皆樣に希望いたします—家
政、育兒、其他要用なる修業の餘暇。即英語と學ふべき暇あ
れバ—矢田部先生の所謂「婦人の道樂」（國のもとゐ中の論說）も和
文、和歌、或は音樂なぞも適當でありませうが、英語と如何
にも、我國の語學も修めずして、何の目的もなく徒に西洋の
文章を講するも、事の順序本末を知れるものと云へませうか
？まして「リーダー」の二三冊、之を學ふとも、貴重なる腦
髓を徒勞せしめ之を償ふに足るへき益を見出せませんものを
。いらつめ方如何思召す？

一筆申上候貴社御冊子第四十六号を拜見致候處揃月散史とい
ふ御方の御作を載せたまへる中に第一回の末句に「さだめ無
き身の上に似て」第二回の末に「戀しき人のかげに似て」第
三回の末句に「あぢきなき世のさまに似て」などゝ有之候へ
これぞ毎回の眼目の句と被存候これらの句は私かねて出版い
たし候いさり火と申候歌集および明治唱歌第三集にいだせる
戰といふ題の歌の句と全く同樣にていかにも怪しむべきもの
と奉存候とは申すものゝ世には同じ思想を同じ言語にて言ひあ
らはす人なしとも限らず候へどもつひ近頃の出版にて貴社よ
り呈上し貴社にて拙御細評をたまはりけるものを御作者はと
もかくも貴社の御紙面に「近ごろ世にめづらしい」云々との御
賞評は何事ぞやこれらは世の文學を獎勵したまふ御精神には
不似合なるべし極作を御批評ありたることはまだ御失念候ま
じきにと奉存候かゝる事は是のみならず世にはまたあるべし
と存候間拜見候まゝ思ふ事を包みもあへず申上候失禮のつみ
御ゆるし可被下候頓首

いさり火作者
大和田建樹

いらつめ御記者樣

記者申す、いさり火は實の處一度讀を過ぐしたばかりの事
ゆゑ揃月散史のを見るに及んでも聞いたやうな句だとは
思ひましたが大和田氏の舊製とも更に知りませんでした。
元より疎漏の罪は記者も謝します。　わざ〳〵御手紙を下
さつた段には厚く御禮を申します。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信問答

西村千代子さまへ㈠新編紫史は仰の通り源氏を今様につくりかへたもので行文も平易に、初學の人が一讀して大に益をも得ますが、しかし猶未完の物です。今までに出て居る處はまだ三編です。それより何より唯何にせよ早く源民の骨組だけ知らうと思へば源氏忍草といふものを御覽なさい。尤も甚簡略では有りますが、わるい物でも有りません㈡探新社とか云ふ社が當地に有るか無いか一向存じません㈢この問は詳に言つて大に益が有りますから次號に於てくはしく言ひます㈣西洋婦人とある程其土臺の色が日本婦人より美しくも有りますが、さりとて日本婦人の白粉の塗り方も實に美想も何も無い仕方です。よしや肌はさ程でも無くとも、充分にうまく化粧する事が出來なくは有りません。白粉も必らず厚くなくてはといふ世の人の間違です。

松田都宇子さまへ㈠前號で御約束した水白粉製法の中もつとも簡略なのは左の法です。　即ち通常の粉白粉を桶なり瓶なりへ入れ、之に五六倍の蒸溜水を注ぎ、よく蓋をし、その儘にして一晝夜置き、さて翌日に爲つて見ると、白粉の中の鉛分が綺羅になつて浮いて居ます。よつて其水を捨て、更に新らしい蒸溜水と前のやうに張つて置く、この法をいくたびも行ふ内に自然に中の白粉は晒されて天晴最上の物になります。　そこで之を用ゐれば身体にも害を爲さず、而も肌よりつきがよく何より結構です。　凡そ水白粉と言つて實は是より上等なのは有りません。　もし之をまた粉白粉にして用ゐたければ水を切つて後ガラスの蓋ひの中に入れて日に干して乾かすのです。

神谷文子さまへ㈠女生徒の袴と言つても跡見女學校生徒のやうなのは大によろしいです。靴は一つ考へものです。半靴深靴(長靴ではありません)なら醜くも有りませんが、すりでは大に不体裁です。さうかとて西洋婦人の穿く踵あがりの靴も亦有害でいけません㈡美妙齋氏の韻文は猶草稿中です㈢女が齒を染るのは上古からの事です、眉を剃るのもやはり昔からです㈣我國の言文一形体と美妙齋氏から始まりました

谷みづ子さまへ㈠前號瘭疽預防に用ゐる石炭酸の度は通常コレラなどに撒布する位よりやゝ濃い位の度がよろしいです。㈡レモンの實は小さくて安いのは二三錢から有ります。白色の成効は永持が無いと言つても二日ぐらゐの間は有効です。いらつめ方は隨分外出なさる前に之を御用ゐになつて便利です㈢是は些し思ふ子細が有つて疑問として揭げました。㈣物集氏の假名遣教科書はたしか十五錢ぐらゐと覺えました㈤資生堂の磨齒石鹸は翁屋で賣つて居ます一つ廿五錢㈥英文習練のためには初學はワシントンアービングの小品文などを讀むが宜しいです㈦如何にも束髮には髮の毛が多過ぎると困ります。その時に用ゐてい、第一の物は例のポマトンヌールです。ヌキ油と同じやうに用ゐて宜しいです

何某さまへ㈠ポメータムアバインは翁屋で調劑します。上製七十五錢です。㈡此頃のいらつめの髮は主に天神髷唐人髷いてふがへしです。　女生徒にはあゝの島田は少いです。文金高髷と女生徒も公會の時などに結ひます㈢チルちやみはフラチルめいた縮みです。

第四十九號疑問

(一)日本國海面の境界は何によつて定候ふや
(二)いろは譬は元始と何年頃にして何人の作りしものなるや
(三)綿羅紗の襟垢を去る法
(四)正月門松を樹てる風習の起原……以上山縣小太郎
(五)白拍子の起原
(六)日本で第一に出した新聞紙の名……以上神崎ゑい子
(七)金銀を鑑定する便法
(八)フランネルの色の落ちるのを防ぐ法……以上佐野政治
(九)サルチル酸の良否鑑別法
(十)編物に關しての良書籍の名出版處定價及著者……加登桂子
(十一)裁縫に關する前同斷
(十二)近來子宮病の者昔時より多しといふが如何なるものなるや其理由と伺ひたく候……以上志田いよ子

右どなたでも解答し出來ます。貴答本月二十日かぎり

第五十一號疑問

㈠漢和兩書の文法の委しく記してある本の名と?　そして代價は?……谷みづ子
㈡絞りを延びぬやうに洗ふ法……何がし女

少年界の三雜誌

少年園

少年園は春花の美秋果の實を兼ねたる好雜誌なり。其大家學士の寄稿に富める、其文辭の平易流暢なる、其挿畫の精巧優美なる、他に又比類を見ざる所なり。其發行の部數每号**貳萬**を越ゆ。獨り少年諸君のみならず、大人と雖も亦常に樂んで卷を拔く所あり。**娯樂**の中に**稗益**を與ふると是れ本誌**獨得の長所**たり。今や卷を更むること三回、号を重ぬること三十六、將に第四卷**第三十七號**に入らんとす。是れ蓋し新に購讀を申込むれ**最好期**なり。後來本誌が如何なる美花を着け、如何なる眞果を結ぶかは、請ふ逐次閲讀して之を知れ。

每月三日、十八日發兌。
定價一冊金五錢、十二冊（半年）前金五十五錢。
廿四冊（一年）前金一圓、郵稅一冊金五厘。
見本は郵劵五錢五厘を要す。

少年文庫

世間に雜誌甚だ多し、然れども未だ少年の手に成るものあらず。其これあるは我少年文庫を以て嚆矢とす。少年文庫は實に少年諸君共有の雜誌なり。之に掲ぐる所の論說、學藝、詩歌、小說、大人俊傑の傳記逸事、佳話、異聞、英文、獨逸文、批評的の新報より各種の新遊戲、滑稽、小話、考へ物、新謎、探書に至るまで、悉く**少年の手に成る**ものならざるはなし。加ふるに每號江湖少年の作文數十篇と各地の少年の通信とを掲ぐ。實に此少年文庫は天下少年の一大會堂といふべく、少年をして智識を交換し、文章を練磨し、交誼を結ばしむるの媒介者なりといふべし。其**第三號**は去る四月十日發行せり。

每月十日發兌。
定價一冊（百二十八頁）金八錢、郵稅一錢、六冊（半年）金五十一錢
（遞送料共）十二冊（一年）前金九十七錢（遞送料共）。
見本は郵劵九錢を要す。

こども

嚮に東京教育社にて發行し、大に子供諸君の愛顧を受けたる「こども」雜誌は、先般本園の養子となり、去る三月下旬其第二卷第一號を出版せり。記事最も平易にして**小學生徒**諸君の學力に相應じ、有益なる修身談、えらい人の行狀、面白い話、可笑い事、美しい繪、爲めになる考物、活潑なる遊戲、小供諸君の作文などを載せたり。其面白いことは凧を揚げ、羽子をつくより面白く、其美しいことは錦繪の如く、愛らしきことは人形の如し。世の愛らしき子供諸君、此「こども」を取寄せ給へ、甚だ面白き友だちなり。世の教育を重んずる方々**其子供の爲めに**此「こども」を取寄せ給へ、甚だ親切なる保傅なり。

每月廿五日發兌。
定價一冊（四十八頁）金三錢、十冊前金廿七錢、廿冊前金五十錢。
郵稅一冊金五厘。
見本は郵劵四錢を要す。

發行所
東京府下北豐島郡
上駒込村十九番地
少年園

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

學校用器定價

○小學化學器械　壹號壹組　金參拾圓　貳號壹組　金拾圓

○小學物理器械　壹號壹組　金五拾圓　貳號壹組　金參拾八圓

○訓蒙化學器械　壹組　金拾七圓六拾五錢

○理化小試器械　壹組　金四圓

○普通化學器械　壹組　金九拾五圓

○普通物理器械　各種　金

○助力器具摸形　壹具　金參圓八拾錢

○訓蒙地學用具　壹組　金四圓

○動物標本　甲號壹組　金參拾五圓　乙號壹組　金貳拾參圓　丙號壹組　金拾五圓

○植物標本　甲號壹組　金拾圓　乙號壹組　金八圓　丙號壹組　金參圓五拾錢

○金石標本　甲號壹組　金拾圓　乙號壹組　金八圓　丙號壹組　金參圓五拾錢

○木材標本　壹組　金六圓七拾五錢

○庶物標本　壹組　金四圓

○動物採集用具　壹組　金四圓

○植物採集用具　壹組　金參圓

○花實摸形　壹組　金拾參圓六拾錢

○野菜幷果物摸形　壹組　金八圓五拾錢

○蠶虫摸形　大形　壹組　金五拾五圓

○同　小形　壹組　金拾貳圓

○風琴和製　金拾八圓以上

○同　舶來　金參拾九圓以上

○フートボール　大形　金四圓廿五錢　中形　金參圓五拾錢　小形　金參圓

○同　舶來　各種

○ヴァイオリン　金參圓五拾錢以上

○同　舶來　金七圓五拾錢以上

○三球儀　金拾八圓

○地球儀　各種

○獨用工具　甲號壹組　金五圓五厘　乙號壹組　金三圓七拾三錢八厘

○啞鈴　球竿　棍棒　木環　豆嚢　各種

右之外敎育上之器械及用具類精々勉強廉價ニ調進仕候間倍舊之御愛顧願上候也

東京本町三丁目　金港堂

大坂北久寶寺町四丁目　金港堂支

●わらんべ

毎月一回（月の八日）發兌　定價二錢　郵稅五厘

本誌は尋常高等何れの小學生徒さんにも至極適功な雜誌です○で先づ第一誠に面白い新奇な謎やさがし書ゞの毎號澤山出る事。次は懸賞問題と掲げて諸子の筆跡、作文、圖畫を澤山募る事です。己上各優等のお方には諸子ゞの入用な書籍でなければ他よ相當な賞品を差上ます○其他新奇で奇妙で面白くて旨い味のしかも諸子の大碑益よなる事柄ゞ澤山載せてあります○それもゑ、諸子は各他の人に負けぬやうに優等よ爲つて賞品を澤山取りそれで知識を充分お廣めなさい物を澤山貫つて知識を廣める程御得用なとはわりませんゞわらんべと仲よく遊むぬものは利口になれぬ事それゞ噓なら一部買つて能く讀んで御覽なさん

發行所　岡山縣岡山市上町六十一番邸　同胞社

本多錦吉郎先生著幷に書

圖解　庭造法

一帙正價　金一圓五十錢　府外遞送料　金三十錢

石版密書二十七圖々解一冊を添て一帙とす　帙の丈け一尺二寸五分　幅九寸　庭園搆造の方法と說明す啻に實用耳ならず机上の清翫にも適す可き雅客紳士必用の圖書也

發行所　東京神田雉子町　團々社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY